

留学報告書 ～留学先での思い出～

マドンナ大学
外国語学部生（長期）

私は2021年8月23日から2022年5月6日までミシガン州のマドンナ大学に長期留学をしていました。大学はリボニアという小さな町にあります。自然豊かですが、周りには高速道路もあります。有名なデトロイトのダウンタウンにも車で30分ドライブすれば行くことができます。私も2回ほど行きましたが、街並みが綺麗で、リボニアとは一風変わった雰囲気味わうことができました。

そんなマドンナ大学には各国から様々な生徒が集まっています。私の所属していたESLという英語を母国語としない生徒のためのクラスには、ブラジル、コロンビア、フランス、イタリア、ポーランド、ベトナム、韓国出身の生徒が在籍していました。日本人も数人いましたが、彼らは交換留学ではなく、マドンナ大学にサッカーで留学をしています。因みにクラスメイトのほとんどはサッカー部だったので、毎回の話題はサッカーのことばかりでした。ESLの授業にはSpeaking/Listening、Reading、Writing、Grammarがありました。課題の量は先生によって異なりますが、基本そこまで多いと感じませんでした。私はライティングが得意で、もうすでに書き方について完璧に理解していると思っていたのですが、書き方にも様々な種類があることを知り、トピックによって適切なフォーマットを使用しなければならないということを学びました。また、Writingのクラスの一環で週に一回、授業時間外の1時間、Writing Centerというところでグループセッションをやっていました。そこでは授業で出されたライティングの課題を添削してもらったり、各自が書いたエッセイについてディスカッションしたりしていました。エッセイを書くにあたって重要な言い換え表現や適切な言葉選びなどを学ぶこともできました。

2セメスター目からはCommunication Concepts and Contextsという学部の授業とESLを並行して受講していました。CommunicationとSpeaking/Listeningの授業では、主にプレゼンテーションをするにあたって必要なスキルを身につけることができましたと思います。私は人前に立って発表することに苦手意識があり、最初の頃は前に立つだけで頭が真っ白になり、スクリプトを発表中に見ていないと話せない状態でした。他のクラスメイトは堂々と前を向いて、その場で思いついた自分の言葉で話しているのに私だけこんなに緊張しているということに対して凄く恥ずかしいなと感じていました。すると、プレゼンテーションのフィードバックの時、先生が私に「人前に立って話すときは、堂々としているふりをするといいよ。」と言ってくださりました。私の中には無かった考え方だったので、この言葉に凄く励まされました。次のプレゼンテーションからは自信がある風に発表するように心がけると、自然と最初のような緊張は徐々に薄れていったので、堂々としているように演じることはとても大事だなと感じました。

個人的に印象に残っている授業はAmerican Culture and Language Immersionです。この授業のフィールドトリップでカーリングをしに行きました。ESLのReadingの先生がカーリングクラブのメンバーの一員であったため、クラスメイト全員でカーリング体験をしました。なかなかできないスポーツなので、とても貴重な体験ができて良かったです。簡単そうに見えて、実は体幹が必要で、たくさん考慮しないといけないことがあったので、やってみないと分からないものだなと思いました。また、第二言語を用いてスポーツをするのも初めてだったので、とても新鮮で楽しかったです。英語でルールを説明してもらったり、チームメイトを作战を話し合ったりするのも英語だったので、とてもいい経験ができたなと感じました。様々なカーリング用語も知ることができました。

最後に最も印象深い留学先での思い出を書いて締めたいと思います。マドンナ大学を離れる1週間前、ポーランド出身の友人と雑談している流れでナイアガラ滝に行ってみた

いという話になりました。私はこの一週間で行けるわけないと思っていたので、軽い気持ちで行きたいと話していましたが、話が進むにつれ、その友人が本格的にナイアガラの滝についてや、車で行くとどのくらいかかるのかを調べだしました。また、私の知らない他2人の彼の友人を誘い計画を立てていたので、私は何が何だかよくわからないままその場の雰囲気飲まれて、4人で滝を見に行くことになりました。早朝5時ごろに寮を出発し、車で片道6時間かけてアメリカ側のナイアガラの滝へ向かいました。6時間のドライブをしたことがなかったので、私にとってはとても長く感じました。しかし、現地の方たちは「6時間は悪くないね」と言っていたので、アメリカの運転の感覚の違いに驚きました。車の中では様々な話が繰り広げられていて、私が9か月アメリカで過ごしてもまだ知らないことがたくさんありました。初対面にもかかわらず自分のことを結構深いところまでオープンに話すアメリカ人の子の話にはとても感銘を受けました。滝に到着して、まず初めに上からの景色を楽しみました。そして、ちょうど4月の下旬から雪もほぼ解けきっていたので、私たちはボートに乗って下からナイアガラの滝を見ることができました。滝は想像以上に壮大で、音も臨場感あふれていて、とても感動しました。しぶきがすごかったので、雨合羽一つでは足りなくらいびしょ濡れになりました。よくカナダ側からの景色が美しいと聞くので、いつかカナダに行ったときはナイアガラの滝にまた行ってみたいと思います。アメリカ生活終盤にこのような最高で奇想天外な思い出を最高の友人たちと作ることができたことは私の一生の宝物です。

私はこの約9か月のアメリカ留学を通して、様々なことを学び、体感しました。特に留学期間中に「受動的にならない」ということを意識していました。自分から何かアクションを起こさないと何も始まらないし起こらないので、勉強や交友関係に関しても積極的な姿勢を示すようにしていました。そうすることで私の中の殻が破れ、世界が広がりました。また、なるべく多くの人と関わるようにすることは本当に大事だと感じました。ありがたいことに、マドンナ大学には各国から人が集まっていたので、多くの違う国の生徒と関わることができました。国や人によって大事にしていることや注目するポイントが違って、私の中には無かった考え方に気づかせてくれたので、考えの幅が広がりました。このような貴重な経験をさせてくれた両親をはじめ、留学までのサポートをしてくださった方々、出会ったすべての人に感謝の気持ちを伝えたいです。この経験を活かし、今後の学校生活や卒業後も自分自身を磨き、高めていきたいと思います。

